



大久野通信

vol.34

まもなく梅雨明け

昨年はカラ梅雨で畑の作物は干上がってしまいました。今年は十分雨が降っているので、皆元気に育っています。暦の通りならまもなく梅雨明け、この調子で夏も適度に雨が降って欲しいと願うばかりです。異常気象が日常となり夏は猛暑が当たり前のようになりつつありますが、網戸からのそよ風で朝晩快適だった夏はもう戻ってこないのでしょうか……。

INDEX

01 実は繊細なジャガイモ

02 失敗に学ぶ

03 今後の展望

01

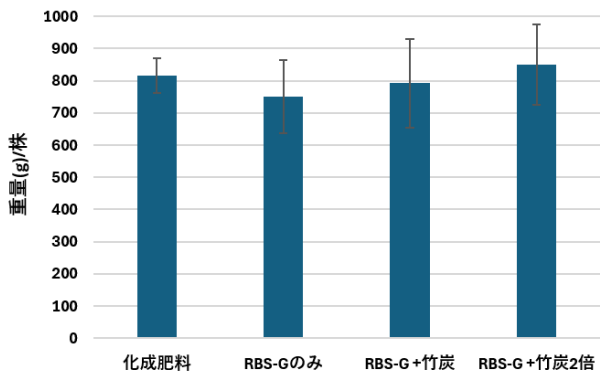
実は繊細なジャガイモ

春先に植えたジャガイモが6月初旬に収穫時期を迎えました。傷つきやすいジャガイモは、土が乾燥した晴れの日には収穫するのが良いとされています。今回の実証は、RBSゴールドに竹炭を加えた場合の影響調査です。竹炭は、炭化していない廃竹に比べて微生物による分解の速度が極端に遅く、焼却などされなければ長期間CO₂を固定する資材です。それゆえ、農水省は竹炭を農地に混ぜて使用することを推奨しています。RBSゴールドの弱点はカリウム分が少ないことなので、竹炭がそれを補うことはあっても悪影響を及ぼすことはないはず、それを確かめることが実証目的です。収穫後の調査では、RBSゴールドのみの場合より若干収穫重量が多く、化成肥料にも遜色ないという結果になりました。ジャガイモに関しては、若干プラスの効果があると言えそうです。



収穫状況

1株当たりのジャガイモの平均重量



収穫重量調査結果

02

失敗に学ぶ

昨年、順調に育成を始めたスイカに重量のある防鳥ネットを直接被せたため、蔓が殆ど成長せず枯れてしまいました。スイカは蔓を傷つけると枯れてしまうほど繊細なのだそうなので、ちょっとした配慮に欠けたことが招いた大失敗でした。これを踏まえ、今年はしっかりと支柱でネットを浮かせて、蔓が自由に成長できる様に工夫しました。果たして、その効果はどうでしょうか。



花が咲き始めたスイカ



失敗を踏まえた対策

03

今後の展望

モビリティリゾートもてぎの体験型施設「ハローウッズ」には、弊社独自の水浄化技術自然浄化法リアクターシステム[®]を採用した「森のトイレ」があります。補給水なしで浄化水を循環させる方式ですが、2000年の開業以来悪臭が全くなく快適で清潔な環境が保たれています。但し、設置から20年以上が経ち当時を知る人はもう居ません。新規需要に応えるなら、やはり一度は試作と検証を行って技術の再確認は必要です。また、現在の法規などと照合して設置可能なか調査も必要です。大久野倶楽部の活動拠点でも、里山の資源循環を考えている地元の仲間たちは「森のトイレ」に非常に興味を示します。自然界が持つ自浄作用を活用するコンセプトが嵌る様です。彼らと実証が出来れば面白い展開になるかも、そんな構想を抱く大久野倶楽部です。